

令和3年度第2回熊本支部評議会議事概要報告

|                 |   |
|-----------------|---|
| 開催日時            | 令和3年7月16日（金）14：00～16：00   |
| 開催場所            | ZOOMによるオンライン開催  |
| 出席評議員           | 岩谷評議員、倉田評議員（議長）、徳富評議員、中村評議員、野間評議員、東評議員、吉弘評議員（50音順）  |
| 議題              | <p>議題1：令和2年度協会けんぽ決算報告と熊本支部の収支について</p> <p>議題2：令和2年度熊本支部事業実施結果について</p> <p>議題3：インセンティブ制度の見直しにおける基本的考え方とスケジュールについて</p> <p>その他：なし</p>  |
| 議事概要<br>（主な意見等） | <p><b>議題1：令和2年度協会けんぽ決算報告と熊本支部の収支について</b><br/>【資料に基づき事務局から説明】</p> <p><b>【主なご意見等】</b></p> <p>&lt;議長&gt;<br/>熊本支部の収支について、収支差はプラスになっているものの全国平均分と比較するとマイナスになっている。支部によって年齢構成などが異なっていることは考慮されているのか。</p> <p>&lt;事務局&gt;<br/>年齢調整と所得調整がされている。協会全体の総報酬に占める支部の総報酬を案分率とし、協会全体の収支差に案分率をかけたものが全国平均分の収支差となる。熊本支部の実際の収支差が、この全国平均分の収支差と同額になれば精算は±0となるが、実際は下回っているため、その差を2年後に精算することになる。</p> <p>&lt;被保険者代表&gt;<br/>令和4年度の保険料率が上がる方向に働くことをご承知おきください、という内容だと理解したが、コロナの影響で財政がどのくらい圧迫して、それが結局どのくらい保険料率を上げることになるのか、イメージしやすいよう分かりやすく伝えていただきたい。</p> <p>&lt;事務局&gt;<br/>ご意見のとおり、丁寧な広報を行っていく</p> |

<議長>

令和2年度はコロナの影響で収入も支出も減った状況であるが、準備金は5か月分に相当する額が積み上がっている。しかし今後、後期高齢者も増えていくこと、医療給付費等の支出もコロナ前に戻っている中では、あまり楽観できない状況ということで、準備金が積み上がっている中においても保険料率を下げるということに至るのは難しいと理解している。

短時間労働者における適用拡大は、事業主に大きな負担になっているのではないかと、また、これまで保険料負担のなかった被扶養者が被保険者になることで加入者にとっても負担が増えるのではないかと考える。短時間労働者の加入が進むことで、これまでとは違う層が被保険者として入ってきている状況において、従来の層を前提とした積み上げ金や保険料率の議論のままで良いのだろうか大丈夫なのか、と疑問に思うが事業主の立場から如何か。

<事業主代表>

適用拡大において負担が増えて影響があるとは感じていないが、見過ごされやすい数字ではないかと思う。

ネットニュースで「6200億円黒字」という見出しを見て儲かっているのかなと思われがちだが、やはり楽観視はできないことを皆さんに理解していただいて、少しでも保険料を抑えるために努力していく必要があると感じている。

<事業主代表>

コロナの影響はあると思うが、熊本支部の令和2年度の収支差が令和元年度の収支差に対して増えているのは何が原因か。コロナの影響だけではないのではないかと。

<事務局>

全国に比べて、令和2年度の熊本の医療給付費が高かった明確な理由は分からないが、医療提供体制の違いなどコロナの影響だけではないと考えられる。なお、全国と熊本の一人当たり医療費を比較すると、令和2年3月は全国の対前年同月比が-6.2%に対し熊本は-1.7%にとどまり、令和2年4月は全国が-11.6%に対して熊本は-5.0%となっており、全国と比べて減り方は少なかった。

<事業主代表>

これから医療費が伸びていかないように、コロナでなく何が原因か、それを抑えるためにはどうすればいいのかを今後は明確に追及していただきたい。

**議題2：令和2年度熊本支部事業実施結果について**

【資料に基づき事務局から説明】

## 【主なご意見等】

### ＜被保険者代表＞

保険料率を下げる取り組みは、事業所全体でもやるべきだと思う。くまもと健康企業会参加事業所は、社員を健康にしよう、そして保険料率も下げよう、という思いで活動している。評議員の皆様にもこの取り組みに理解を深めていただきたい。

### ＜被保険者代表＞

「上手な医療のかかり方の普及のためのセミナー」をコロナの影響で中止しているが、オンラインセミナーは検討されなかったのか。

### ＜事務局＞

当初予定していたのは300人規模のセミナーで、対談も計画していたが人数の規模や機器の設備状況について支障もありオンライン形式はとらなかった。今後はコロナが過ぎても積極的にICTを活用していく。

### ＜事業主代表＞

ジェネリック医薬品の使用促進については、これまでの努力の結果が出ていると思う。日経新聞に処方箋の検討で医療費が360億円の削減になると記事が出ていた。なるべく支出を無くしていく方向で考えていくことが大切だ。

### ＜学識経験者＞

協会けんぽ主催の集団健診の達成状況ではKPIを達成している。熊本支部では伸び率がかなり良いのではないかと思う。今後の方針としては、どのように考えているのか。また、被扶養者の受診率を今後伸ばしていく策はあるのか。

### ＜事務局＞

集団健診の伸び率について、被保険者については過去最大の日数で開催したため伸びている。被扶養者については、上期は本部主導で実施をストップしていたため下期だけの実施となった。実施日数は前年並みを確保したものの、受診者数は減少した。今後の方針として、協会けんぽ主催の集団健診を今年度も過去最大の規模で日数を確保して実施する。また、被扶養者の受診行動の分析から、健診無関心が非常に多いことが分かったため、集団健診での機会を豊富に提供していくことと併せて、市町村主催のがん検診と一緒に受けられるという利便性を最大限広報してニーズに答えていく。

## 議題3：インセンティブ制度の見直しにおける基本的考え方とスケジュールについて

【資料に基づき事務局から説明】

【主なご意見等】

<議長>

インセンティブ制度は、頑張っているところにご褒美という形で、競争指標が取り入れられているということだ。熊本においては、今の制度でも頑張っている方で、かつメリットも頂いている方だということだが、一番大きいインセンティブを与えられた県でも減算率は非常に微々たるものだ。様々な考え方があると思うがいかがか。

<被保険者代表>

インセンティブ制度で一番大事なことは、事業主及び加入者の行動変容を促すことだと考える。この制度の目的は、将来的な医療費の適正化につなげることであるため、行動変容につながる視点となっているのであれば良いのではないか。

<被保険者代表>

熊本は非常に頑張って結果を出しているが、保険料率は高い状況が続いている。インセンティブ制度は本当に目的につながっているのだろうかと思う。個人一人ひとりや事業所は何がインセンティブにつながっているのかを考え直さなければいけないのではないか。

<事業主代表>

インセンティブ制度に関しては分かりにくいという印象があった。見直しにおいては、企業や社会が取り組みやすいものが目標になった方が分かりやすいだろうし、個人にも響く目標にすれば取り組みやすいと思う。さらに、保険料率のインパクトを強めて、頑張れば頑張るほど保険料に響くという流れができればやる気の源になるのではないかと考える。

<議長>

支部の努力で、加入者の皆様に利益として還元できることが望ましいと思われるため、そういう形でインセンティブが生きるようお願いしたい。

(以上)

特記事項

- ・ 次 回：令和3年10月
- ・ 傍 聴：報道機関2名